

## 「みんなの居場所」

山口県 安禅寺住職 村上邦明  
あんぜんじ むらかみ ほうみょう

私が住職を務める安禅寺には、子ども食堂「わきっちゃん」があります。「わきっちゃん」は、安禅寺のある山口県和木町の「わき」と、キッチンを合わせた名前です。この活動は、「地域の子ども達の居場所作り」が目的で昨年から始まりました。

「わきっちゃん」は、月に一度、地元の民生委員などが主催し、お寺は台所と調理機材を提供しています。調理スタッフは「美味しく食べてもらうには、どうしたらいいかねー。ご飯の量や硬さはこれぐらいかねー」など工夫しながら、子どもたちに喜んでもらえるよう作っています。あるスタッフは、「子ども達に元気をもらっています。何かしてあげているのではなく、微力ながら誰かの役に立たせてもらっている、そんな気持ちです」と話していました。

参加する子ども達は、カレーを食べた後スタッフや大人と一緒にレクリエーションを楽しんだり、本堂でクイズ大会をしたり、またテスト期間中に参加した中学生は、数学を教えてもらったりしていました。コロナ禍で人との交流が減っている中、学年や世代を超えた交流が「わきっちゃん」で生まれています。お寺には笑い声があふれ、そこには生き生きとした空間と時間があります。ご本尊様も、この光景を温かく見守って下さっていると思います。子ども食堂「わきっちゃん」は、運営スタッフの「子ども食堂をやりたいけど、会場がないんだよね」という会話から始まりました。当初私は「お寺を有効に活用していただければ」と軽い気持ちでお貸ししました。

しかし、子ども食堂が始まり回を重ねる中で、気づいたことがあります。この活動への協力者だと思っていた私自身が「幸せな温かい気持ち」をもらっているというところに。それだけではありません。「うちのお寺で子ども食堂が開催されて、嬉しいですよ」とお墓参りに来られた方が、そうおっしゃいました。子ども食堂「わきっちゃん」は、地域の大人や子ども、「皆の居場所」になっています。